

「ワニのライルとなぞの手紙」



プリムさん一家と一緒に暮らすワニのライルは、誰からも好かれていました。まちの子どもたちも、ライルが大好きで、いつも「一緒に遊ぼう」とライルを誘いに来ます。そして、ライルも、この広いすばらしい世界全部が大好きでした。

ある日、「あんたなんか大嫌い。我慢できないくらいあんたが嫌い。あんたの敵より」と書いたライル宛の手紙が玄関に置いてありました。プリムさんは、「まあ、なんてひどいことを！でも今までどおりでいいのよ。手紙のことは忘れなさい」と言いました。

その夜、ライルは一生懸命手紙のことを忘れようとしてました。けれども、暗い窓の外を見つめると、やっぱり考えてしまうのでした。「ぼくのことを嫌いな人がいるんだ」

次の日、ライルは夢中で遊んで、あの手紙のことを何とか忘れることができました。ところが、2通目の謎の手紙が来てしまい、そこには、こう書いてありました。

「ライル、今日は昨日よりもあんたが嫌い」

そのうちに、ライルは、自分が嫌われたのは、顔が変になったからではないかと思い始めました。そこで、ライルはみんなに気に入られるように、にっこり笑う練習をしました。ライルは外に出ると、笑顔をふりまいたり、手を振ったり、みんなに精一杯愛想よくしました。みんなに好かれよう

とあんまりがんばったので、一日が終わるとへとへとに疲れました。

ある日、ライルは、家の近くの堀に「ワニをやっつけろ」という落書きを見つけましたが、どんなにこすっても消えませんでした。

ある日、プリムさんは、玄関ドアの下から例の手紙が滑り込んで来るのを見つけました。ドアを開けると手紙を握りしめた女の子が立っていて、こう言いました。

「ライルは、私の友だちをとっちゃうの。ライルが出てくると、友だちはライルと遊びに行って帰ってこない。私はひとりぼっちでつまらない。でも、私はライルとは遊べない。だって、おかあさんにワニと遊んではいけないって言われているの」(後略)

参考「ワニのライルとなぞの手紙」(B・ウェーバー 大日本図書より)

- ライルは心に深い傷を負ったことでしょう。しかし本人の心がけや努力では、防ぐことはできません。
- ライルの心を傷つけた女の子も、満たされない気持ちを抱えているのかもしれない。
- このようなことが起こらないように、私たち一人ひとりにどんなことができるでしょう。

問い合わせ 人権推進課 ☎ 65-0693 📠 63-4582

鳥獣害対策ニュース No.24

今回は野生獣による被害現場での声をもとに、そこで起きている現象について考えます

被害現場での声から 見えてくること

野生獣による被害を受けた現場では、次のような声をよく聞きますが、そこから現場で起こっていることが見えてきます。

①「このサルはハンターが行ったときだけ逃げる」

↓ハンター以外の人を見ても、怖くないと思われている証拠です。ハンターの捕獲だけに頼ると、ハンター以外の人間は安全と認識し、集落での人馴れが進んでいきます。集落ぐるみでの追い払いを心がけましょう。

②「花火はすぐ慣れる」

↓音はしても怖くないという使い方をしていた証拠です。ロケット花火は野生獣に向けて使用しましょう。

③「前は数が少なかったが増えた」

↓集落が山よりも魅力的な工サ場となつてきている証拠です。収穫しないで放置された果樹や畦畔の雑草等、人間にとつては価値のないものでも野生獣にとっては工サに

なるものが数多くあります。農地だけでなく、これら集落周辺の環境整備も行い、集落の工サ場としての価値を下げることが重要です。

④「防護柵の効果がない」

↓防護柵の隙間から侵入されていたり、漏電により電気柵が機能していないことなどが考えられます。定期的な点検を行い、野生獣に侵入された場合は侵入状況に応じて補修・改良する必要があります。

平成21年度有害鳥獣捕獲等状況

野生獣による生活環境や農林業に対し、多くの被害が生じていますが、市では、防除対策によつても被害が防止できない場合(外来獣を除く)に有害鳥獣捕獲を行っています。平成21年度の捕獲数は次のとおりです。

○ニホンザル	47頭
○イノシシ	113頭
○ニホンジカ	535頭
○アライグマ	77頭
○カラス	123頭

(平成22年3月末現在)

問い合わせ 農業振興課 鳥獣害対策係 ☎ 65-0734 📠 63-4592